

※平成31年以降の表記は、新元号に読み替えることとする。

事業番号

0045

平成31年度行政事業レビューシート(復興庁)

事業名	被災地通学用バス等購入費補助			担当部局庁	復興庁	作成責任者				
事業開始年度	平成24年度	事業終了(予定)年度	平成32年度	担当課室	統括官付参事官(予算・会計担当)	参事官 増田 直樹				
会計区分	東日本大震災復興特別会計									
根拠法令(具体的な条項も記載)	-			関係する計画、通知等	東日本大震災からの復興の基本方針					
主要政策・施策	子ども・若者育成支援			主要経費	文教及び科学振興					
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	東日本大震災で被災した都道府県又は市町村が負担するスクールバス・ポート購入費について、国がその一部を補助することにより、東日本大震災の被災地における児童生徒の通学支援に資する。									
事業概要(5行程度以内。別添可)	東日本大震災により被災した都道府県又は市町村が、学校の新築復旧や移転復旧等による遠距離通学児童・生徒の通学条件の緩和を図るために運行(航)するスクールバス・ポートを購入する場合に補助する。 【補助対象経費】被災地通学用バス等購入費 【補助率】1/2									
実施方法	補助									
予算額・執行額(単位:百万円)	予算の状況	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度要求				
		当初予算	26	11	34	31	57			
		補正予算	-	-	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-			
		予備費等	-	-	-	-	-			
	計	26	11	34	31	57				
	執行額	5	8	20	-	-				
	執行率(%)	19%	73%	59%	-	-				
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)	19%	73%	59%	-	-					
平成31・32年度予算内訳(単位:百万円)	歳出予算目	31年度当初予算	32年度要求	主な増減理由						
	被災地通学用バス等購入費補助金	31	57	学校の新築復旧等によりスクールバスを購入する自治体が増加したため。						
	計	31	57							
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	28年度	29年度	30年度	中間目標 -年度	目標最終年度 -年度	
	-	-	成果実績	-	-	-	-	-	-	
			目標値	-	-	-	-	-	-	
			達成度	%	-	-	-	-	-	
根拠として用いた統計・データ名(出典)	-									
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載							チェック			
定量的な成果目標の設定が困難な場合	定量的な目標が設定できない理由	定性的な成果目標と28~30年度の達成状況・実績								
	定量的な目標が設定できない理由及び定性的な成果目標	通学困難な児童・生徒数及び学校数については、それぞれの自治体で判断しているため、定量的なアウトカムが設定できない。								
	事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績	代替目標	代替指標		単位	28年度	29年度	30年度	中間目標 31年度	目標最終年度 32年度
	国庫補助申請を行った自治体全てが事業を完了する。	国庫補助申請が行われた事業の事業完了割合。	実績	%	100	100	100	-	-	
		目標値	%	100	100	100	100	100		
		達成度	%	100	100	100	-	-		

活動指標及び活動実績 (アウトプット)		活動指標		単位	28年度	29年度	30年度	31年度 活動見込	32年度 活動見込		
		活動実績	当初見込み								
補助事業を採択した市町村数		活動実績		市町村	1	3	5	-			
		当初見込み		市町村	-	-	-	4			
単位当たり コスト		算出根拠		単位	28年度	29年度	30年度	31年度活動見込			
		執行額/補助事業を採択した市町村数						単位当たり コスト	千円/市町村	4,540	2,607
				計算式	千円/市町村	4,540千円/1市町村	7,820千円/3市町村	19,800千円/5市町村	25,500千円/4市町村		
政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策	2 確かな学力の向上、豊かな心と健やかな体の育成と信頼される学校づくり									
		施策	2-8 教育機会の確保のための支援づくり								
	測定指標	定量的指標		単位	28年度	29年度	30年度	中間目標		目標年度	
								-	-	-	-
				実績値	-	-	-	-	-	-	-
			目標値	-	-	-	-	-	-	-	
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係										
	本事業により、学校の新築復旧や移転復旧等のため通学が困難になる遠距離通学児童・生徒の教育の機会の確保をすることができる。										
	新経済・財政再生計画 2018 改革工程表	取組事項 (第一階層)	分野:	-	-						
			KPI (第一階層)		単位	計画開始時	30年度	31年度	中間目標		目標最終年度
		-	-	-		-			-	-	
		成果実績	-	-	-	-	-	-	-		
		目標値	-	-	-	-	-	-	-		
		達成度	%	-	-	-	-	-	-		
新経済・財政再生計画 2018 改革工程表	取組事項 (第二階層)	KPI (第二階層)		単位	計画開始時	30年度	31年度	中間目標		目標最終年度	
					-			-	-	-	-
			成果実績	-	-	-	-	-	-	-	
			目標値	-	-	-	-	-	-	-	
		達成度	%	-	-	-	-	-	-		

事業所管部局による点検・改善

			項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性			事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	東日本大震災の被害の甚大さを考慮すると、通学困難な被災児童生徒の教育の機会確保のための通学支援は必須である。
			地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	通学用スクールバスの購入費補助については公共性の高いものであり、国が主体的に進めていくべきものである。
			政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	通学困難な被災児童生徒の教育機会の確保の観点から、優先度は高い事業である。
事業の効率性			競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	-	
			一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	-
			競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
			受益者との負担関係は妥当であるか。	○	補助対象経費や補助率は交付要綱等に定めており、妥当である。
			単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	補助対象経費や補助率は交付要綱等に定めており、妥当である。
			資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	-
			費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	事業内容は厳正に審査し、使途や必要性について厳密なチェックを行った。
			不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	スクールバス購入について、計画と実績に乖離が生じたため。
		繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-	
		その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	-	-	
事業の有効性			成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	現在まで、被災自治体からの国庫補助申請額通りに補助をしており、被災自治体のニーズを踏まえた事業となっている。
			事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	通学困難な児童生徒の教育機会の確保においては、スクールバス購入がより効果的である。
			活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	前年度要望額調査により計上されたものについて、申請通り補助を行っている。
			整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	購入したバスについては被災自治体で効果的に活用している。
関連事業			関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	
	所管府省名	事業番号	事業名		
点検・改善結果	点検結果	通学が困難になっている被災児童生徒に対する通学条件の確保は重要であることから、不用率の縮小に努めつつ、引き続き関係自治体の要望に対応できるよう、予算の確保に努める必要がある。			
	改善の方向性	関係自治体における復興に向けた工程の進捗状況を踏まえ、より具体的な今後の事業計画の把握に努め、不用率の縮小を図る。			

外部有識者の所見

執行率の改善がみられない。自治体のニーズおよび、関係自治体における復興に向けた進捗状況の的確な把握につとめ、予算の適正化を図ること。

行政事業レビュー推進チームの所見

現  
状  
通  
り

引き続き、ニーズを的確に把握し、効果的・効率的な執行に努めること。また、予算の適正化を図ること。

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

執  
行  
等  
改  
善

平成30年度は大型バスを検討していた自治体が復興の状況を考慮し小型バスに切り替えたこと等により、バス購入費が当初の見込みより低額となったため執行率が低い結果となったが、関係自治体の復興の進捗状況やニーズを踏まえて、引き続き効率的・効果的な予算の執行に努めていく。

備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	-	平成23年度	-	平成24年度	9	平成25年度	040
平成26年度	059	平成27年度	0057	平成28年度	0048	平成29年度	0040
平成30年度	復興庁 ( 0042 )						

※平成30年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

なお、金額は単位未満四捨五入して記載していることから、合計が一致しない場合がある。

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位: 百万円)



